

2020 年度事業・活動報告

2021－2025 中期計画

2021 年度事業・活動計画

2020 年度新聞掲載記事

盛岡 YMCA

共に SDG s の歴史を刻む盛岡 Y M C A へ

理事長 魚 住 英 昭

2021年度盛岡 YMCA 会員総会を迎えるに当たって、理事長として一言ご挨拶を申し上げます。

岩手県内に初めて新型コロナの感染者が発生して、そろそろ10カ月となります。昨年度は、ご承知のとおり、YMCA でもそれをサポートするワイズメンズクラブでも多くのプログラムが中止になりました。しかし、様々なプログラムの自粛も2年度目を迎えると、組織の運営や組織文化の継承に大きな影響が出てきます。こうした事情は、YMCAに限らず、全国、全世界のあらゆる組織に共通している課題だと思われます。ただ、感染が拡大し始めた初期とは異なり、その後、次第に感染の詳細なメカニズムが解明され、緻密な感染対策が整備されるようになりました。そうした事情もあって、第4波といわれ、客観的な数値としては、第1波の感染期以上に深刻な状況を迎えている現在、多くの組織が規模を縮小したり、オンラインを併用したりしながら、種々のプログラムを再開するようになっています。

盛岡 YMCA で、最も大きな影響があったのは、おそらく、学生リーダーの活動、とりわけ、新人の勧誘や育成、それを通じての YMCA 文化やノウハウの継承だっただのではないのでしょうか。新型コロナ初年度となった前年度は特に苦戦を強いられたようで、今年度も厳しい状況であることには変わりはありません。しかし、そうした制約された状況の中でも多くの学生リーダーが懸命に知恵を出し合い、新入生らに YMCA の価値を伝え、一定の成果を出していることを聞き、感銘を受けているところです。こうした経験は、特殊な状況下でのものですが、盛岡 YMCA の歴史にとって貴重な財産になるのではないかと考えています。

さて、私たちは、二年ほど前に、組織として SDG s を学ぶ機会を持ちました。SDG s は、2000年からスタートしたミレニアム開発目標 (MDG s) の後継目標として2015年に国連で採択されたものです。貧困、紛争、気候変動、感染症など、人類が直面している課題をこのまま放置してしまうと、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなるとの危機感に基づいて設定された17の目標です。民族や宗教、政治体制の違いを超えて、すべての国や企業・団体、個人がこれを共有して、達成に向けた努力をしようとするものです。ここには、平和や人権、貧困・飢餓への対策、技術革新など、人類が歴史を通じて築き上げてきた普遍的な価値がバランスよく取り込まれています。これらの内容は、いずれも世界の良識的な市民が市民運動や平和運動、差別撤廃運動を通じて訴え続けてきたことであり、また、社会貢献や企業倫理を重視する良識的な企業人が追及してきたものでもあります。

世界のYMCAも基本的には、そうした潮流を生み出す上で大きな役割を果たしてきたものと考えています。すなわち、自らの主義主張により、他の立場を否定したり、攻撃したりするのではなく、政治体制や宗教、思想の違いを超えて、隣人としての交流や対話を大切にしていくこと、そして、豊かな自然の恵に感謝し、それが損なわれないように自然環境を大切にするなどです。そのような基本的価値観は、盛岡という地方都市で始められた小規模のYMCAにも確実に受け継がれており、それゆえに、多くのスタッフや学生リーダーも誇りをもって自らの役割を積極的に担うことができているように思います。

おそらく、SDGsに盛り込まれた目標の実現が今ほど切実に求められている時代はないのではないかと思います。ただ、それに取り組もうとする私たちは、小さい者たちの集まりにすぎず、決して強大な権力や豊富な財力に恵まれた存在ではありません。時として、無力感に苛まれることもないわけではありません。しかし、歴史の主宰者である神は、常に、私たちのような小さき者を用いて、歴史を描いていかれます。そこに、私たちの希望があります。

私たちは、今年度も新型コロナの影響を受けて、大幅に出席者を限定して、ひそやかな会員総会を開催するところから、新年度の第一歩を踏み出すこととなりました。世俗的な観点から見れば、何とも心細く、頼りないスタートかもしれませんが、それにもかかわらず、私たちの歩みは確かな希望と誇りに支えられています。これからの1年間で私たち盛岡YMCAに集うものに大きな恵みをもたらすであろうことを信じて、力強く、第一歩を踏み出したいと思えます。

皆様のご健勝とご活躍を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

(2021年5月22日 盛岡YMCA 会員総会 理事長挨拶)

2020 年度 事業・活動報告

■ はじめに

新型コロナウイルス感染拡大により 2020 年 3 月から 5 月末日にかけて行政からの委託事業であるチャイルドケア事業（放課後児童クラブ）以外の全ての事業を自粛しました。このような急激な社会状況の変化に対応するため、盛岡 YMCA は、既に承認されていた 2020 年度事業計画をベースに 3 つの重点目標を新たに定め、予算の修正を行いました。そして、これらの重点目標を達成するため複数のプロジェクトチームを職員間で組織し具体的な行動計画を作成しました。これらの行動計画にもとづきそれぞれの 2020 年度の事業・活動が行われました。以下、重点目標別の評価をもって 2020 年度の事業・活動報告とさせていただきます。

■ 2020 年度盛岡 YMCA 重点目標・計画に対する評価

盛岡 YMCA は、3 つの重点目標「Ⅰ. 3 ない運動を推進する」「Ⅱ. 力を蓄える。」「Ⅲ. マイナス決算にしない」を定め、「①ポジティブネットのある豊かな地域社会を実現すること」「②未来を担う子どもや若者を育てること」に取り組みました。

I 3 ない運動を推進する（評価）

新型コロナウイルスの感染予防として盛岡 YMCA が地域でできる活動として「感染させない、また発生したとしても拡大させない」「元気をなくさない」「差別をしない」を強調した 3 ない運動を地域の諸団体と協働して推進しました。

1. 「感染させない」、また発生したとしても「拡大させない」

全国 YMCA と情報を共有し、盛岡 YMCA としての感染対策を明文化した「新型コロナウイルス対策ガイドライン」に従って盛岡 YMCA が行う全ての事業・活動において感染予防を行いました。また、感染状況の変化に応じて「ガイドライン」の改訂を行うなどの確な対応に取り組みました。

11 月以降は岩手県内でも感染者が急増し盛岡 YMCA に関係する方々にも濃厚接触者に特定されるケースが出てきました。その度、プログラムの休講や中止の連絡を SNS や直接電話をするなどして迅速に、かつもれなく伝えてきました。また、「放課後児童クラブ」においては盛岡市のこども青少年課と連絡を密に行い、行政からの指導に即した対応を早急に行うようにしました。

2. 元気をなくさない。(気づく力、聴く力、自分を支える力を無くさない。)

1) 日本赤十字社が作成した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」のパンフレットを、東日本大震災被災地復興支援募金を用いて印刷し、日本赤十字社岩手県支部と協働し県内160の小中学校に約4万部配布することができました。

2) 4月から5月中旬にかけて全国都道府県に発令された「緊急事態宣言」に伴い人々の行動が大きく制限される中、盛岡YMCAの会員・保護者のみなさんを対象に「元気が出る作文コンテスト」「私の手作りマスクコンテスト」を開催し多数の応募を受けることができました。もりおかワイズメンズクラブがスポンサーとなり入賞者には図書カードが贈呈されました。また入賞者一人ひとりには選考委員から丁寧な講評が添えられました。

3) 「新型コロナウイルス3つの顔を知ろう」の冊子を活用し、ふらいむ・たいむ 前潟校では、紙人形による劇を通して差別や偏見に対するワークショップを開催することができました。また、日本赤十字社のスタッフの方を講師にユースボランティアリーダーを対象としたリーダートレーニングを開催しました。

3. 嫌悪・偏見・差別をしない。

いじめをなくす「ピンクシャツデー」を推進する団体として新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、嫌悪・偏見・差別を蔓延させない取り組みを地域の団体と協働して発信しました。「地域」「家庭」「職場(学校)」を表す3つの輪のあるリボンを作ることで、コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくす運動を行っている団体、「シトラスリボン in いわて」と協働して運動を進めました。盛岡YMCAの放課後児童クラブに通う子どもたちがピンクのシトラスリボンを作成し、身に着けることでいじめや偏見について考え、こうした行いを無くすアピールをしました。

II 力を蓄える(評価)

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から全国のYMCAにおいて数多くのプログラムの実施やイベントの開催が自粛されました。盛岡YMCAにおいても、サマーキャンプや、GoToトラベルに申請して準備を進めていたスキーキャンプ、9月に予定していたチャリティーマラソン大会(チャリティーラン)の開催を断念しました。しかし、こうした状況をネガティブにとらえることなく、むしろ今後盛岡YMCAがステップアップしていくための準備の期間ととらえ、体制を整え、提供するプログラムの内容を向上させていくことを目的に以下、7つの課題に取り組みました。

1. 伴走サポートプログラムを盛岡YMCAの全放課後児童クラブで開始します。

伴走サポートプログラムは、子どもたち一人ひとりの成長を長い目で見守りながら、子どもたちの日々の体験の中で得られたエピソードを記録し、フィードバックしていくもので、全国のYMCAの放課後児童クラブにおいて取り組みが開始されています。盛岡YMCAでは9月から全国共通のアプリを用いて4つの放課後児童クラブで試験的に導入することができました。その結果、以下の評価が挙げられました。

- 1) エピソード記録はフルタイム職員のみで入力されるクラブが多く、パート職員の方にまで入力作業を拡大するまでには至りませんでした。
- 2) クラブ間において取り組みの差がありました。また、職員間においても熱心に入力する人とそうでない人との差が見られました。
- 3) そもそもエピソード記録によって示される成長応援指標というものが評価可能なものなのかどうか、またどのように活用していくのか内部で検討する必要があります。
- 4) エピソードの記録だけで終わってしまいました。今後、クラブごとの運用上の課題や蓄積された記録をどのように活用していくかを各クラブで共有し、協議する場を設ける必要があります。

2. 放課後児童クラブ、もしくは放課後等デイサービスなど新拠点の開設に向けて調査を行います。可能性があれば進出するアクションを開始します。

津志田地区に放課後児童クラブを新たに開設する団体に対して業務委託を公募するとの情報を入手し、盛岡 YMCA も応募しました。4 団体が応募し、結果として盛岡 YMCA は選定されませんでした。反省として、委託を受けた団体に比べて、応募の決断が遅く、地域の課題を十分に調査した上での応募では無かったことが挙げられました。また、放課後等デイサービスについては、盛岡 YMCA として新規事業として開始するか否か、地域のニーズや全国 YMCA の動向も含めて引き続き検討を重ねていきます。

3. 盛岡市、近隣市町村の今後の状況を精査し、YMCA に関わる多くの人の意見に耳を傾けて 5 年後の盛岡 YMCA をイメージした中期計画を作成します。

中期計画策定委員会を組織し、職員、リーダーへのインタビューやアンケート、盛岡市、並びに近隣市町の情報を元に審議を重ね、常議員会、理事会において以下の 3 点を重点目標に据えた中期計画が策定されました。

- I 地域の未来を支える子ども、若者を育成支援します。
- II 地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。
- III 盛岡 YMCA の活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

4. 各センターの環境美化を行います。教室、プレイルーム、事務所の掃除、整理整頓を行います。

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ（習慣）」といった 5 つの S の頭文字をとった 5S 運動を盛岡 YMCA の各センター、プログラムにおいて推進しました。環境美化にむけてハンドブックを作成し、大規模な断捨離とデスク回りの整理、ファイリングのルールを統一を行いました。職員によって理解や取り組みがまちまちなので、2021 年度以降も継続的に取り組み、組織風土としての定着を図っていきます。

5. スタッフ、リーダーに対して体系的なトレーニングを実施し、個々の資質の向上を図ります。

ユースボランティアリーダーに対しては、「SNS の利用する際の注意」「新型コロナウイルスの 3 つの顔」「YMCA 理解」「危険予測」「グループワーク」「キリスト教理解」「会の持ち方、活かし方」「新型コロナウイルス感染予防対策」「対象理解」「安全理解」「SDGs」「発達障がい」「子どもの食育」「キャ

ンプの力」といったテーマで主に zoom を活用して 14 回の講義を開催しました。また、水泳では実技トレーニングを 2 回開催することができました。フルタイム職員に対しては、公用車を運転する機会のある職員を対象とした安全運転講習会を自動車教習所に委託して実施しました。また、日本赤十字社の救急法基礎講習を受講してもらいました。

6. 維持会員増強、募金、寄付の増加を図ります。認定 NPO 法人の法人格を取得します。

維持会員増強に向けて大規模なキャンペーンを開催することはできませんでしたが、認定 NPO 法人格の取得に関しては、年度末までに必要な書類をそろえて申請することができました。認定までは、「実地調査（現地確認）」を含めて申請後、約 6 ヶ月ほどの期間がかかる予定です。

7. 盛岡 YMCA が行っている放課後児童クラブ、サッカースクール、水泳教室、体育教室、野外活動、英語教室、書道教室が提供するサービスの内容を向上させます。

- 1) 入会、休会、退会時の事務連絡など基本的な対応を的確に行えるように取り組みました。
- 2) 連絡なしでの欠席者、休会者への電話でのフォローを行いました。
- 3) サッカー、水泳、体育のプログラムでも、グーグルフォームを利用してエピソード記録を入力する「伴走サポートプログラム」を行うことができました。

Ⅲ マイナス決算にしない（評価）

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う事業・活動の自粛によってプログラム中止や会員の減少が生じましたが、それを理由にマイナスを計上するのを当たり前とするのではなく、効果が期待できる方策を確実に実行することによって単年度のマイナスを回避することに努めました。

1. プログラム再開の目途が立ったら、素早いリスタートができるように準備をしておきます。

プログラム事に具体的な感染対策を準備し、スムーズにプログラムを再開することができました。また、無料の連絡網アプリ「マチコミ」を活用し、年間を通して新型コロナの感染関係での急な連絡も対応できる仕組みを作り対応していくことができました。

2. 経費削減を行います。

それぞれの予算執行者が毎月の予算状況をチェックし経費節減に努めることができました。また、4 半期ごとの会計報告を理事会、常議員会に提出することにより全体の収支状況を把握しながら運営することができました。

3. 利用できる助成金、補助金を調査し可能なプログラムは積極的に応募します。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実施は断念しましたが、Go To トラベルを用いてスキーキャンプの応募をしたところ、年末、年始（年始は宮古を対象）のいずれも募集においては定員を充足しました。また、持続化給付金、家賃補助の申請を行い、受給することができました。

4. 効果的な広報活動を推進します。

ホームページを一部リニューアルし、インスタグラムを通して盛岡 YMCA の活動状況を発信し続けることができました。

■ その他

1 本町センターの移転について

2021年1月4日、本町センターにおいて大規模な水漏れが発生し、2階事務所、1階放課後児童クラブのプレイルームが大きな被害を受けました。その後約2か月にわたり、日本キリスト教団内丸教会の協力により、教会堂をお借りし、保育を行うことができました。これを契機に約30年にわたり盛岡YMCAの活動の拠点であった本町通3丁目のセンターから中央通り3丁目にあるマンション「ラ・ベルヴィ中央」の1階に移転することを決定し、3月から新センターに移転しました。これに伴い、新センターの名称を「YMCA 中央センター」に変更しました。

2 東日本大震災被災地復興支援事業について

2011年3月18日に支援活動を開始して以来10年の際月が経過しました。盛岡YMCAは、「東日本大震災被災地復興支援活動」として行ってきた「宮古を愛する子供たちの育成事業」を2020年3月末で一旦終了しました。これまでの取り組みに対してしっかりとふりかえり、今後、新たな視点での復興支援活動に取り組んで行きたいと考えております。以下、10年の活動を簡単に報告致します。尚、活動の詳細につきましては2021年度内に発刊を予定している「宮古ボランティアセンター10年の歩み（仮題）」で報告致します。

■ 2011年度

3月18日 日本キリスト教団宮古教会の協力により、復興支援活動を開始しました。当初の活動は瓦礫の撤去、ヘドロの除去が主な活動でした。阪神淡路大震災の際、復興支援活動に携わった佐久間真人主事が日本YMCA同盟から派遣され、初期の活動体制を整えて下さいました。その後大阪YMCA OBの池田勝一さんが初代所長として、横浜YMCA職員の大塚英彦さんがディレクターとして着任し長期にわたる支援活動がスタートしました。

富士ワイズメンズクラブから軽トラック、滋賀の長浜ワイズメンズクラブからは4WDのワゴン車が寄贈され避難所、仮設住宅でのレクリエーション、焼きそば等のお振舞を積極的に展開していくことが出来ました。

■ 2012年度

横浜YMCAから大谷昭雄さんが所長として大阪YMCAから木田泰之さんが副所長として着任しました。広島YMCAからの大口の寄付により7月には宮古教会の隣地を賃借し2階建てのセンターをプレハブで建設しました。建設にあたっては、宇都宮東クラブの岡田さん、もりおかワイズメンズクラブの大関さんのご尽力により立派な施設が短期間で完成しました。2年目の活動は、仮設住宅でのお振舞に加え、地域の

お祭り、イベントへの積極的な参加を行いました。また、仮設住宅への引っ越しの手伝い、草刈り等新たな活動も加わってきました。

■ 2013 年度

木田泰之さんが所長となり、仙台 YMCA から斎藤勉さんが副所長として着任しました。ヘドロの除去や、瓦礫の撤去、仮設住宅でのお振舞といった活動から「宮古を愛する子どもたちの育成事業」として未来を担う子どもたちの育成にその活動の重点を移していきました。具体的には、毎月の野外活動「アドベンチャークラブ」の開催、週 1 回のサッカー教室を宮古小学校校庭で行いました。また、夏休み中津軽石小学校での「短期集中水泳教室」など、通常 YMCA が行っている活動を宮古でも積極的に展開していきました。

■ 2014 年度

木田泰之所長が帰任し、斎藤勉さんが所長となりました。この年よりボランティアセンターは常勤が一人体制をなりました。マンパワーが減少する中、地元のボランティアの皆さん、被災地にクライマーを派遣する会の皆さんからのサポートにより、前年と同様の支援活動を展開することが出来ました。閉伊川大蔵学校、東京海洋大学とコラボした「ヤマメの採卵体験」など森、川、海に恵まれた宮古の地域を生かしたプログラムを実施することが出来ました。

■ 2015 年度

斎藤勉所長が仙台 Y に帰任し、宮古ボランティアセンターはスタッフレスとなりました。盛岡 Y から通いもしくは、プログラムの前日宿泊で、復興支援活動を継続していきました。また、宮古ボランティアセンターの土地所有者が土地の売却を決定したため、ボランティアセンターを移転することとなり、2 年間使用したプレハブのボランティアセンターは解体することとなりました。資材は鉾ヶ崎地区で被災した七滝湯のオーナーに寄贈しました。新センターの移転先は宮古市田の神地区で、同じく移転計画中の宮古教会のすぐそばになりました。宮古を愛する子どもたちの育成事業と並行して、高校生ボランティアの育成に力を入れた 1 年となりました。

■ 2016 年度

8 月 30 日、岩手県沿岸を襲った台風 10 号の影響で宮古市中心部は大規模な水害に見舞われ、宮古市は激甚災害地域に指定されました。盛岡 YMCA は、① 9 月 3 日～4 日 ② 9 月 11 日～12 日とワークキャンプを開催し、ヘドロの除去等作業を行いました。盛岡 YMCA の職員、学生リーダー、被災地にクライマーを送る会が終結し、震災当初と同じ作業を行いました。また、学生 YMCA と盛岡 YMCA のリーダーの交流を宮古を通して行い、学 Y, リーダーの共同企画によるプログラムを開催しました。

■ 2017 年度

サッカースクール、野外活動を中心に盛岡からスタッフ、リーダーが通う形で、支援活動を継続しました。目標としていた 10 年間の活動継続を実現するため、経費の節約を図り田の神の宮古ボランティアセンターの閉鎖を行いました。これ以降、盛岡からの通いによるプログラムの継続に完全に移行すること

となりました。

■ 2018 年度

5月、6月の野外活動を終え、8月のサマーキャンプの開催を準備する中で、YMCAのキャンプが旅行業法違反に該当するとの指摘があり、宮古市からの教育委員会の名義後援を受けることが難しくなりました。このため、9月以降、震災復興支援活動は、毎週火曜日のサッカースクールに限定されるようになりました。

■ 2019 年度

盛岡 YMCA は旅行業登録を行い、宮古においてサマーキャンプを開催することが出来ました。しかし、盛岡 YMCA のマンパワーの不足もあり、毎月の野外活動は、行うことが出来ず、サッカースクール中心の活動となりました。

■ 2020 年度

閉伊川大学校、東京海洋大学等のコラボでの環境学習を目的としたキャンプの開催を準備をしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催ができなくなりました。こうした中でも毎週火曜日に開催しているサッカースクールは年間を通して継続することができました。

■ 今後の方向性

台風、旅行業の問題、新型コロナウイルスと後半は野外活動の機会が減少したことは残念でしたが、宮古での活動を通して確実にボランティアも育っています。また、この10年間の活動を通して確実に種を蒔くことができたと考えています。今年リーダーになった大学1年生のリーダーの中には、宮古市の出身で小学校時代、盛岡 YMCA 宮古ボランティアセンターが主催したスキーキャンプに参加した経験がある学生がいます。当時のボランティアリーダーの名前も覚えていました。このように、長い年月の活動の中でボランティアの皆さんを始め、歴代所長、スタッフが蒔いた種が芽生えてきています。

今後は地元の団体と共同した野外活動や、沿岸教職員を対象とした教育相談会、ふくしまスタディツアーなど、細く長く活動を継続していければと考えております。

■ 事業報告 3月31日現在

維持会費、寄付、プログラム募集実績

	A 2020年予算	B 2019年実績	C 2020年実績	対予算	対前年度
本部					
維持会費	800,000	612,000	608,000	△192,000	△4,000
寄附金	200,000	441,000	728,400	528,000	287,400

特別活動募集実績

ファミリーサッカー大会	未実施	37	未実施		△37
チャンピオンズカップ	80	85	88	8	3
フットサル大会	40	未実施	50	10	
イベント計	120	122	138	18	16

野外活動募集実績

定例野外活動

	A 2020 予算	B 2019 実績	C 2021 実績	C-A	C-B
4月活動		32	未実施		△32
5月活動		37	未実施		△37
6月活動	30	29	30	0	1
7月活動		未実施	33	33	33
8月活動	30	25	29	△1	4
9月活動	30	25	30	0	5
10月活動	30	39	33	3	△6
11月活動	30	21	23	△7	2
1月活動	30	35	30	0	△5
2月活動	30	26	26	△4	0
3月活動	30	未実施	23	△7	23
定例野外計	240	269	257	17	△12

季節キャンプ ※ サマーキャンプは日帰りのプログラムで修正予算を組んだが実施しなかった。

	A 2020 予算	B 2019 実績	C 2021 実績	C-A	C-B
わんぱくキャンプ		22	未実施		△22
森の大自然満喫キャンプ		33	未実施		△33
サッカーキャンプ		36	未実施		△36
星空満天キャンプ		35	未実施		△35
島のわくわくキャンプ		37	未実施		△37
ジュニアスキーキャンプ		48	未実施		△48
ダイナミックスキーキャンプ		23	未実施		△23
日帰りスキー教室	45	9	未実施	△45	△9
季節キャンプ計	45	243	0	△45	△243

定例プログラム募集実績

	A 2020 年予算	B 2019 年実績	C 2020 年実績	C-A	C-B
サッカー	117	112	113	△4	1
水泳	86	101	76	△10	△25
児童クラブ	212	211	203	△9	△8
体育教室	10	8	6	△4	△2
生涯学習	13	16	15	2	△1
宮古		42	31		△11

■2020 年度 盛岡 YMCA 活動報告 (2020 年 4 月 1 日～)

A. 理事会・常議員会・会員総会

月日	行事	場所	出席	主な議題
4 月	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	書面	役員改選、会員総会内容
5 月	会員総会	日本基督教団内丸教会	書面	18 年度事業、会計報告、19 年度計画予算
8 月 20 日	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	11	2020 年度修正予算について 中期計画について
10 月 22 日	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	11	中期計画について
11 月 26 日	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	11	中期計画について
1 月 21 日	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	11	2021 年度事業計画について
2 月 25 日	常議員会・理事会	いわて情報交流センター	11	2021 年度予算について

B. 職員研修

月日	行事	場所	出席	内容
10月12日	安全運転講習	盛岡南ドライビングスクール	9	運転実地 救急講習
2月11日	救急法基礎講習	日本赤十字社岩手県支部	6	救急講習
2月23日	救急法基礎講習	日本赤十字社岩手県支部	4	救急講習

C. 特別活動

月日	行事	場所	出席	内容
8月1日	サッカー無料体験会	高松公園多目的広場・土	25	サッカースクール合同無料体験会
8月3・6日	水泳無料体験会	ふれあいランドいわて	13	水泳無料体験会
11月7日	世界の料理ツアー	プラザおでって	TAISH05	
1月10日	水泳無料体験会	ふれあいランドいわて	2	ふらいむ・たいむ会員対象体験会
	サッカー無料体験会	県営運動公園・人工芝	中止	ふらいむ・たいむ会員対象

D. リーダートレーニング

月日	講師	場所	出席	内容
7月5日	日本赤十字社	ZOOM	37	新型コロナウイルスについて
7月12日	濱塚有史	ZOOM	26	YMCA 理解
7月18日	小川嘉文	ZOOM	55	危険予測トレーニング
7月19日	武田悠、向平悟	ZOOM	26	グループワークについて
9月19日	向平悟	高松小学校校庭	9	サッカーのトレーニングについて
11月7日	向平悟	県営運動公園・人工芝	12	技術の積み上げについて
11月14日	中原真澄	ZOOM	中止	キリスト教理解
11月21日	濱塚有史	ZOOM	32	会の持ち方・活かし方
12月5日	日本赤十字社	ZOOM	23	新型コロナウイルスについて
12月12日	向平悟	ZOOM	24	対象理解
12月13日	武田悠	ZOOM	30	スキーキャンプ理解
12月19日、20日	小林明彦 盛岡 YMCA スタッフ	安比高原スキー場	中止	日帰りスキーリーダートレーニング
2月20日	高橋勝明	ZOOM	23	私たちを取り巻く食の環境について
2月21日	島田茂	ZOOM	30	SDGsについて

3月7日	名古屋恒彦	ZOOM	27	発達障がいについて
3月10日	青山鉄兵	ZOOM	30	キャンプの力

E. 定例野外活動

ちきゅうと、あそぼう。

日 程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
6月28日	われら！まちなか探検隊！！	盛岡城跡公園周辺	30	4	5
7月26日	夏の暑さを吹き飛ばせ！！川遊びに行こう♪	中津川	33	10	2
8月30日	水鉄砲を作って遊んじゃおう♪	外山森林公園	29	11	2
9月27日	滝を見に行こう♪	七滝	30	11	2
10月25日	秋はみんなで釣りざんまい♪	行徳養魚場	33	11	2
11月29日	お馬さんと一緒に遊んじゃおう♪	馬っこパークいわて	23	10	1
1月31日	スノーチューブで遊んじゃおう♪	国立岩手山青少年交流の家	30	10	2
2月28日	オリジナルそりを作って遊んじゃおう♪	国立岩手山青少年交流の家	26	11	2
3月28日	春の森探検隊♪	岩手県民の森	23	9	2

F. サッカー大会

日 程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
10月18日	第9回盛岡YMCAチャンピオンズカップ	高松公園	88	17	5
3月13日	スプリングサッカー大会	渋民総合体育館	50	12	5

G. サンデースクール

日 程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
10月4日	キンボールで遊ぼう！！	仁王地区活動センター	15	8	1
11月1日	スノードームを作ろう！！	YMCA向中野センター	22	15	1
2月7日	バスボムをつくろう！	YMCA 向中野センター	30	12	1
3月21日	オリジナルカレンダーをつくろう！	YMCA 向中野センター	8	10	1

H. 東日本大震災被災地復興支援事業

日 程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
サッカースクール					
6月-7月	サッカーⅠ期	宮古小グラウンド	28	3	1
8月-12月	サッカーⅡ期	宮古小グラウンド	31	5	1
1月-3月	サッカーⅢ期	宮古小グラウンド	31	5	1

盛岡 YMCA 中期計画

2021 年度～2025 年度

〈 はじめに 〉

1. 震災後、盛岡 YMCA の 10 年の歩み

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 10 年が経過しようとしています。この間、盛岡 YMCA は大きな変容を遂げてきました。2011 年 3 月 18 日には、宮古市内に盛岡 YMCA 宮古ボランティアセンターを設置し被災地復興支援活動を 10 年間継続することを目標に今日まで活動を行ってきました。

盛岡においては、震災当初、地域センターは本町センターのみでしたがその後、前潟センター、向中野センター、盛南センターを開設し、市内 4 箇所において放課後児童クラブの事業を展開できるようになりました。

ユース世代への取組みは、一時期、減少していたボランティアリーダーの育成を積極的に図り、現在では岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学を中心に毎年 100 名近い学生がボランティア登録をしてくれるようになりました。彼等の若い力や地域の諸団体の協力を得て、いじめや差別を無くすことを目的とした「ピンクシャツデー運動」を展開し、障がいのある人もない人もすべての人たちが共に幸せに生きていくための理解と共感を広げる「チャリティーラン」を開始することができました。

また、全国の YMCA が推進するブランディングにいち早く取組み、ホームページや看板、印刷物、ユニフォーム等、表出に関する刷新を行うとともに、ブランドビジョンである「ポジティブネット」の実現を年度計画の目的に掲げ、職員、ボランティアリーダー、会員に対してその理解と浸透に努めてきました。

2. 中期計画の策定に向けて

震災後、盛岡 YMCA の 10 年間は、慌ただしく経過しました。その年その年の課題の解決が優先され、中・長期的視野に立った計画のもと、年度計画が立てられ、日々の活動が行われる状況には至りませんでした。一方、私たちを取り巻く社会の状況は大きく変化してきています。盛岡近郊も例外ではありません。ICT 技術の進歩による産業構造の転換、著しく進む少子高齢化、格差、いじめ、環境問題など大きな変化と課題に直面しています。さらに 2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い日々の生活は様々な形で制限され、人々は先の見えない不安にさられるようになりました。私たち盛岡 YMCA は 10 年間の歩みをふりかえり、このような時代だからこそ、行う全てのプログラムを通して、参加する子どもた

ち、家族、そして地域に対して「みつかる つながる よくなっていく」場を提供し、共に「互いを認め合い、高め合うことのできる人の善意や、前向きな気持ちよってつながるネットワーク（ポジティブネット）」を地域社会に広めていくことを目的とした中期5ヶ年計画を策定します。

〈 計 画 〉

合い言葉は、「みつかる つながる よくなっていく」
～ポジティブネットのある豊かな地域社会の実現を目指します。～

私たち盛岡YMCAは、行う全てのプログラムを通して、参加する子どもたち、家族、そして地域に対して「みつかる つながる よくなっていく」場を提供し、共に「互いを認め合い、高め合うことのできる人の善意や、前向きな気持ちよってつながるネットワーク（ポジティブネット）」を地域社会に広めていきます。そのためには、以下の3点を中期計画の重点とします。また、中期計画を実践するプロセスにおいて、既存のプログラムの内容の充実を図ることを最優先課題とし、さらにその先のポスト中期計画の時代も視野に入れ、将来社会や地域の要望に盛岡YMCAが答えることができるように、パイロットプログラムを積極的に展開していきます。そして、この中期計画は盛岡YMCAが単独で行っていくのではなく、地域の諸団体との関係性を深め、連携して地域の課題解決に取り組んでいくことを重視します。

I 地域の未来を支える子ども、若者を育成支援します。

1. 子どもたちに安全で安心して過ごせる放課後の時間と居場所を提供します。

- 1) 盛岡YMCAが現在行っている放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ」の内容を充実させ、ノウハウの蓄積を図っていきます。
- 2) 盛岡市並びに近隣市町が計画する、放課後児童クラブ、児童館等新たな地域における民間委託、指定管理に応募していきます。
- 3) 放課後の健全育成を行う他団体との連携を図り、地域の子どもたちの成長を支援します。

2. 子どもたちの調和のとれた成長を促すウェルネスを推進します。

- 1) サッカー、水泳、体育教室のプログラム内容を充実させ、プログラムを通して、体を動かすことの喜びや、工夫して上達することによる思考能力、仲間とともにスポーツをすることによる、他者への思いやりの精神を養います。また、子どもたち自身やその家族が生涯にわたってスポーツを楽しめるプログラムの開発に取り組みます。
- 2) 野外活動の内容を充実させます、野外活動を通して、自然を大切に思う心、グループ活動の中で、他者と自分との違いに気づきそれを克服する力、共同生活を体験することで、生活する上で大切な良い習慣を養います。

- 3) 地域のスポーツ活動、野外活動や環境問題に取り組む他団体と連携し、地域の子どもたちの成長を支援します。
 - 4) こどもたちに対して自分が自分でいいんだという「自己肯定感」を与え、こどもたちの心の幸せを高めていきます。
- 3. 「心をひらき、分かち合う、前向きでまわりを惹きつける魅力を持つ」若者を育てます。**
- 1) 地域の諸団体と連携し若者たちへ自らの成長を促せるボランティアの場を提供します。
 - 2) リーダートレーニングの充実を図るとともに、地域社会の課題や文化、歴史について学ぶ場を提供します。
 - 3) YMCA のグローバルなネットワークを活かし、世界のYMCA とつながりを深める機会を提供します。

II 地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。

1. いじめや偏見をなくすピンクシャツデーの運動を広めていきます。
2. インターナショナルチャリティーランを開催し、その参加者、協力者の拡大に努め、障がいのある人もない人も全ての人たちが幸せに生きていくための理解と共感を地域に広げます。
3. 地域に生きるすべてのこどもたちが将来に希望を持つことができるよう、「ポジティブネット子ども募金」運動を推進し、こどもたちの貧困対策に地域の諸団体と連携して取り組みます。
4. YMCA の持つグローバルなネットワークを活かし、市民の異文化理解、多様性の理解の向上に貢献します。

III 盛岡 YMCA の活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

- 1 YMCA 運動の担い手として盛岡 YMCA に関わる一人ひとりに対してその力が十分に発揮できるよう、YMCA の使命、YMCA の目指すポジティブネットのある地域社会に対する理解を深め、共有する機会を提供します。
- 2 働く職員が生き生きと安心して YMCA 運動を推進していけるよう、研修の充実、仕事の合理化、諸制度の整備を図ります。
- 3 YMCA 運動の理解者、協力者（寄附者、維持会員）の拡大に努めるとともに、YMCA を理解し、組織をささえマネジメントに関わるボードメンバーの開拓を図ります。
- 4 職員と共に、YMCA 運動を理解し、YMCA の行うプログラムの最前線に立つ学生ボランティア、市民ボランティアの養成に努めます。
- 5 10 年後、さらに進む地域の少子高齢化を想定した新規事業の研究・開発に取り組みます。

2021 年度盛岡 YMCA 事業・活動計画

◆ 基本聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」ローマ信徒への手紙 12 章 15 節

「人にしてもらいたいと思うことはなんでもあなた方も人にしなさい。」マタイによる福音書 7 章 12 節

◆ 前文

新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の生活を大きく変えようとしています。YMCA 自体もその運動のあり方を再検証する時期に来ているといえるでしょう。こうした中、盛岡 YMCA は 2025 年度までの中期計画を策定しました。今年度から向こう 5 年間、「みつかる つながる よくなっていく」を合い言葉にポジティブネットのある豊かな地域社会の実現を目指して YMCA 運動を展開して行きます。2021 年度はそのスタートの年として、※1「伴走プログラムの推進」※2「キャラクターディベロップメント運動」の導入 ※3「メンバーシップバイデザインの取組み」の 3 点を重要課題として、YMCA に集う一人ひとりが満足できるよう内部体制の強化に務めていきます。具体的な事業・活動計画は中期計画で示された以下の計画を 2021 年度の事業計画とし、事業部、タスクチーム単位で具体的な行動計画を作成、計画の実現を図っていきます。

※1 YMCA 伴走サポートは、ひとりの子ども、ひとつの家庭に寄り添いながら、一貫して子育てと子育てを応援する全国の YMCA で導入を進めているオリジナルプログラムです。その子に合った成長を長い目で見守りながら、日々の体験で得られたエピソードを記録し、保護者やご家庭の方への個別面談を通じて定期的にフィードバックします。

※2 全国の YMCA において展開しているキャンペーン。「キャラクター」とは「人格」、「ディベロップメント」は「向上」を意味します。人格形成に必要とされる価値は様々ですが、その中でも YMCA は、「CARING (思いやり)」「HONESTY (誠実さ)」「RESPONSIBILITY (責任感)」「RESPECT (尊敬心)」という 4 つの価値を掲げ、YMCA のあらゆる活動を通してこれら 4 つの価値を伝えて行きます。YMCA に関わる全ての人、子どもたちにとって、また全ての人にとっての良きモデルとなり、人格の中にこの 4 つの価値が生涯にわたって大切な価値として育まれていくこと、そして一人ひとりが自分を大切に思う気持ち、それと同時に自分以外の人、物、自然などに関心を持って自分のことのように全てを大切にできる人格を育てることを目指します。

※3 メンバーシップバイデザイン

YMCA のプログラム参加者が、一時的なサービスの利用者として終わるのではなく、YMCA の提供するサービスに満足する

ことから始まり、YMCA が実施する様々な運動に寄附者として、ボランティアとして、そして YMCA の担い手として関わり、YMCA の使命と価値を体験できるようになること。

I 地域の未来を支える子ども、若者を育成支援します。

1. 子どもたちに安全で安心して過ごせる放課後の時間と居場所を提供します。

- 1) 盛岡YMCAが現在行っている放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ」の内容を充実させ、ノウハウの蓄積を図っていきます。
- 2) 盛岡市並びに近隣市町が計画する、放課後児童クラブ、児童館等新たな地域における民間委託、指定管理に応募していきます。
- 3) 放課後の健全育成を行う他団体との連携を図り、地域のこどもたちの成長を支援します。

2. 子どもたちの調和のとれた成長を促すウェルネスを推進します。

- 1) サッカー、水泳、体育教室のプログラム内容を充実させ、プログラムを通して、体を動かすことの喜びや、工夫して上達することによる思考能力、仲間とともにスポーツをすることによる、他者への思いやりの精神を養います。また、子どもたち自身やその家族が生涯にわたってスポーツを楽しめるプログラムの開発に取り組めます。
- 2) 野外活動の内容を充実させます、野外活動を通して、自然を大切に思う心、グループ活動の中で、他者と自分との違いに気づきそれを克服する力、共同生活を経験することで、生活する上で大切な良い習慣を養います。
- 3) 地域のスポーツ活動、野外活動や環境問題に取り組む他団体と連携し、地域の子どもたちの成長を支援します。
- 4) こどもたちに対して自分が自分でいいんだという「自己肯定感」を与え、子どもたちの心の幸せを高めていきます。

3. 「心をひらき、分かち合う、前向きでまわりを惹きつける魅力を持つ」若者を育てます。

- 1) 地域の諸団体と連携し若者たちへ自らの成長を促せるボランティアの場を提供します。
- 2) リーダートレーニングの充実を図るとともに、地域社会の課題や文化、歴史について学ぶ場を提供します。
- 3) YMCA のグローバルなネットワークを活かし、世界のYMCAとつながりを深める機会を提供します。

Ⅱ 地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。

1. いじめや偏見をなくすピンクシャツデーの運動を広めていきます。
2. インターナショナルチャリティーランを開催し、その参加者、協力者の拡大に努め、障がいのある人もない人も全ての人たちが幸せに生きていくための理解と共感を地域に広げます。
3. 地域に生きるすべての子どもたちが将来に希望を持つことができるよう、「ポジティブネット子ども募金」運動を推進し、子どもたちの貧困対策に地域の諸団体と連携して取り組みます。
4. YMCAの持つグローバルなネットワークを活かし、市民の異文化理解、多様性の理解の向上に貢献します。

Ⅲ 盛岡 YMCA の活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

- 1 YMCA運動の担い手として盛岡 YMCA に関わる一人ひとりに対してその力が十分に発揮できるよう、YMCAの使命、YMCAの目指すポジティブネットのある地域社会に対する理解を深め、共有する機会を提供します。
- 2 働く職員が生き生きと安心して YMCA 運動を推進していけるよう、研修の充実、仕事の合理化、諸制度の整備を図ります。
- 3 YMCA運動の理解者、協力者（寄附者、維持会員）の拡大に努めるとともに、YMCA を理解し、組織をささえマネジメントに関わるボードメンバーの開拓を図ります。
- 4 職員と共に、YMCA運動を理解し、YMCAの行うプログラムの最前線に立つ学生ボランティア、市民ボランティアの養成に努めます。
- 5 10年後、さらに進む地域の少子高齢化を想定した新規事業の研究・開発に取り組みます。

差別や偏見なくそう

新型コロナウイルス感染者や家族、医療従事者への偏見や差別を防ぐと日本赤十字社が作成しウェブ上で公開していた教材を、青少年の教育などに取り組むNPO法人「盛岡YMCA」が冊子にして、県内の小中学校に約4万部配布した。集団感染が判明した遠野市でも授業に使われ、生徒からは「誰がかかっても責めない」と声が上がったという。日赤岩手支部は「正しい知識を身に付け、他者への優しい気持ちを育んで」と呼び掛けている。

【山田豊】

新型コロナ

教材は、日赤が3月下旬ごろに作成した。「確かな情報を得よう。差別的な言動に同調しないようにしましょう」などと呼び掛ける内容で、盛岡YMCAの担当者が5月に日赤岩手支部に「冊子にまとめて小中学校に配布しては」と提案した。YMCAの浜塚有史総理事(59)は「イラストも豊富で、感染症が引き起こす病気や不安、差別について、とても分かりやすく説明されてい

た。なぜ不安になるのか、差別が生まれるのかを小中学生が考えるきっかけを作りたい」と語る。

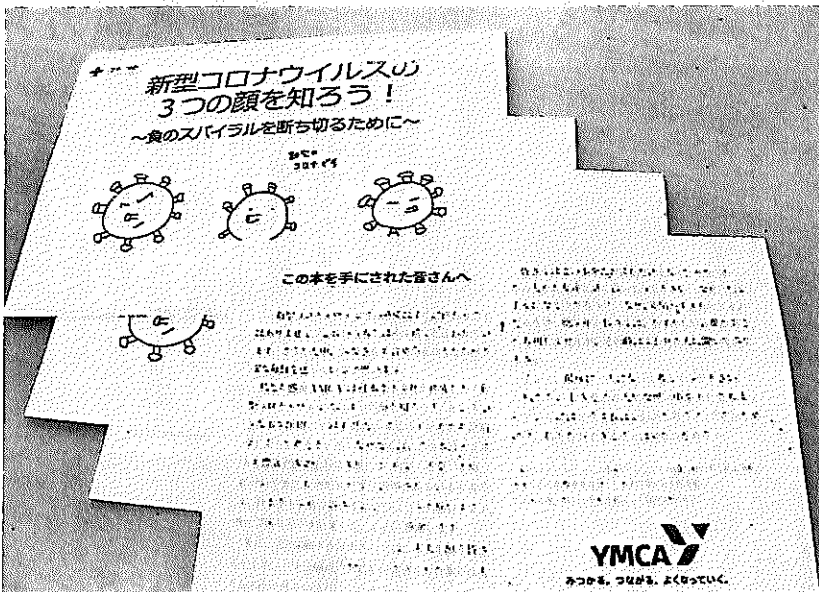
YMCAは、冊子に「ただ読むだけでなく、おうちの人やお友達と話し合ってみて」となどと書いた呼び掛け文を挟み、9月初旬までに盛岡市など県内約160の小中学校に届けた。すると、実際に冊子を活用した学校から反響もあった。

8月下旬に遠野市で会食した親族が集団感染した直後、遠野中学校では冊子を活用し

た授業を実施した。同校によると、授業前は感染や感染者を不安がる生徒もいたが、授業後は「感染した人の気持ちを考えて、言葉を発したい」と声をあげたという。日赤岩手支部の平野直事務局長は「自分の心も知らず知らずにお互い嫌みを出さず、差別や偏見をなくしよう」というメッセージが響いていてうれし

「誰がかかってても、責めない人になりたい」などの反応が寄せられたという。

小中学校に4万部配布 集団感染・遠野市で授業活用



日赤岩手県支部とNPO法人「盛岡YMCA」がまとめた冊子—盛岡市三本柳の日赤岩手県支部で

教訓を、教壇から

2021年度がスタートする1日。大船渡市赤崎町出身の千葉文彦さん(22)は、新規採用教員として矢中町の煙山小で一步を踏み出す。赤崎小6年の時に東日本大震災を経験、学びを支えてくれた教師の姿に憧れ、同じ道を志した。学生時代は地元のみならず、追悼行事の運営に携わった行動派。震災の記憶がない世代が学び始める中、「当時の経験を伝え、子どもたちの成長に寄り添いたい」と、命を守る行動の大切さを次世代に伝えていく。

千葉さんは31日、煙山小の校舎を前に「たくさんの子も私たちと接するのを楽しみでもあり、ときどきも大きく」と自覚した。

「この瞬間に何を思いは」。震災発生時は自宅にあり、相父母、妹と一帯に真山に逃げた。学校や地域での避難訓練が生きたが、眼前の津波を目撃した。自宅は全壊し、避難生活も余儀なくされた。

小学校の卒業式は緑青園の園庭で行われた。「できないものと思っただけ、開いてくれて実感が湧いた」と感謝する。11年度に進学した赤崎中も被災しており、当初は大船渡中を間借りし、仮設校舎に移って授業を続けた。

赤崎中では生徒会会長を務め、交流した秋田県や埼玉県の生徒が被災地に思いを寄せてくれたことが忘れられない。由緒長い「教壇」の影を、赤崎小時代の「教壇」の思い出を、学びを支えて指導して下さった「先生」の言葉も大きく、小学校教諭を目指す。

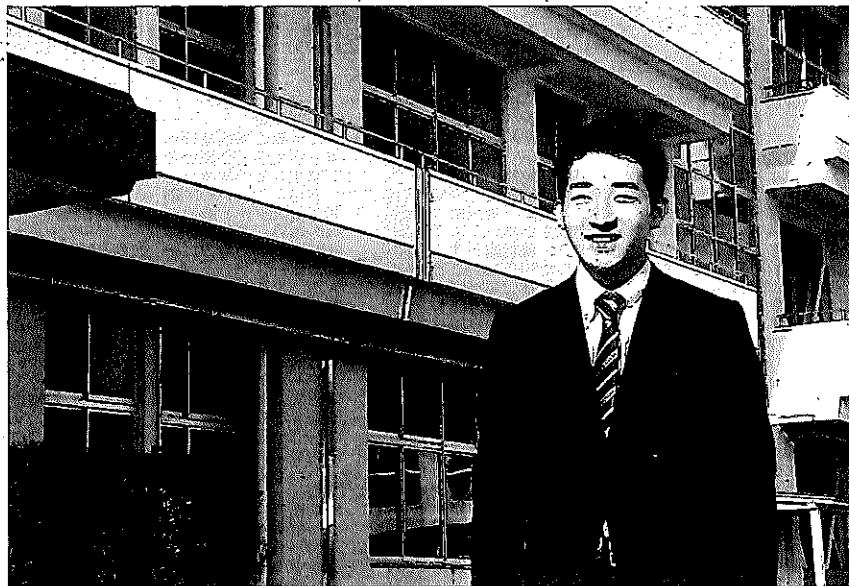
新採用教員・大船渡出身の千葉文彦さん

「当時の経験伝える」

指した。

震災後、赤崎町の復興支援活動にも参加した。地域の未来図の作成や追悼行事、復興市の運営にも関わってきた。震災10年の3月、追悼行事に共に参加した同級生の山口菜穂さん(22)「東京都板橋区」は「昔から真面目で優しい。周りから信頼され

る先生になってほしい」とエールを送る。大船渡高から盛岡大に進み、学生生活ではNPO法人盛岡YMCAのボランティアとして、幼児や小学生対象のスポーツスクールや野外活動を支えてきた。成長のスピードを感じた4年間だった。子どもと関わる楽しさを実感したと学びを深めた。21年度の県内公立校新規採用教諭は小学校140人、中学校79人、義務教育学校1人、高校39人、特別支援学校25人の計278人。千葉さんは「過去の経験を無駄にせず、子どもの変化に気付ける先生になりたい」と見据えた。



「自分の経験を踏まえ、命をどう守るか考えるきっかけをつくりたい」と小学校教諭として一步を踏み出す千葉文彦さん(22)31日、矢中町・煙山小